

# OSFだより

第111号 2011(H23)年12月



発行・編集 財団法人岡本国際奨学交流財団 263-0023 千葉市稲毛区緑町1丁目19番11号 TEL043-248-8808 FAX043-238-4138  
osf-midori1911@codacoda.ocn.ne.jp http://www.osf-family.com

OSF(Okamoto Scholarship Foundation)の活動案内 1、留学生宿舎の運営 2、留学生へ奨学金の支給 3、留学生の学習&人生相談・国際交流

## 誠実に・勤勉に

会長 岡本 正

私が初めてアメリカ・欧州へ行ったのは45年前のこと。私自身もまだ40代の働き盛り。目的はガソリンスタンドの視察だった。

そのころからようやく日本にも自動車の波が押し寄せ、交通組織が変わりはじめた頃だった。

ハワイ アメリカ ヨーロッパ 香港を回るコースで日数は二十日間。

初めての海外旅行で新しい発見の連続だったが、最初に驚いたのは、アメリカを走る自動車の大きさと量、それに高速道路が発達していることだった。大型車が大量のガソリンを消費して高速道路を縦横に走りまわる。燃費を聞くと、リッター当たり3キロ(現在日本に最高燃費の良い車は30キロ)。

ニューヨークへ行き、観光バスで街中を見学する。ガイドは日本人留学生。極めて要領よく適切な案内をしてくれた。

スラム街を通る。昼間から道路に寝転んで酒を飲んでいる人がそこらじゅうにいる。

私の質問「どうして働かないのか？」

ガイドの答「今アメリカでは生活保護費が高く、働くより遊んでいたほうが収入が多い。」初めて聞く話で私には理解できなかった。さらに驚いたのは、スラム街の道路の反対側には宝石取り扱いの高級店が並んでいたこと。

質問「スラム街に隣接しているリスクはないのか。」

ガイドの答「この人は生きる意欲を失くしているから強盗も盗みも出来ないのだろう。」本当なら哀しい話だ。

中央公園側には最高級の華麗なマンションが林立する。が、少し行けばそこはスラム街だ。

その頃のアメリカでは天国と地獄が併存していた。これ以上の差別と格差はないだろう。

これが当時のアメリカの現実の姿だった。この差別と格差の問題はその後少しずつ解消の方向に進んでいたが、昨今の世界的不況でまたどうなっているだろうか。

現在、アフリカ・南米など世界的にも貧富の格差は広がってきている。なかなか解決するのは困難では

あるが、私自身は各民族が「誠実に働く」ことが前提条件ではないかと思っている。

百年前にマルクス・エンゲルスが共産主義を唱え、格差のない平等な社会を目指した。それに基づいて、ロシアのレーニンが革命を起こし、ロマノフ王朝を倒した。しかし、革命によって差別や格差が解消されることはなかった。

むしろ、ペレストロイカによって共産党は権力を失い、社会は昔に戻っている。すなわち、宗教は復活し、レーニングラードは昔のサンクトペテルブルグに改名された。ロマノフ王朝最後の家族の銃殺された遺体は掘り起こされて、ロシア最高の墓地に移された。

レーニンの革命によっても格差と差別はなくなり、むしろ拡大したのだった。

資本主義であれ、共産主義であれ、どんな主義や考え方であれ、人間としての誠実さ・勤勉さが基本になくしてはならない。まじめに働かないかぎり、社会は進歩しないし、平等の社会も実現しない。

私がアメリカへ旅行して間もなく起きたのは、黒人暴動である。白人と黒人の生活レベルの格差に対して反感を持った黒人が、いっせいにアメリカの大都会で暴動を起こした。

しかし、いくら暴動を起こしても格差は解消しない。要は、少しでもまじめに働く以外に道はないのだ。その後、キング牧師の強い指導力によって黒人も暫時目を覚まし、今日現在のオバマ大統領が実現した。その前のブッシュ内閣の時にも、国務長官は女性の黒人であったし、世界的に見ても黒人のリーダーが増えてきた。

次の世界は白人にしる、黒人にしる、東洋人にしる、どんな人種でもまじめに働く人がリーダーになれる。人種・民族による差別はなし。そういう社会が来るのではないだろうか。私はそれを期待している。

会長 岡本正は12月16日午後2時、永眠いたしました。起き上がれなくなっても、この原稿のことを気にかけて、力をふり絞って書き上げました。最後まで皆様への感謝の気持ちを口に、「ありがとう、ありがとう」と言いながら、旅立ちました。

袁 佳瑜 (奨学生)

中国 (山西省)

東京学芸大学 教育学研究科学校教育専攻

### 留学生活を通じて自分で成長したと思えること



今までの留学生活を振りかえってみると、多くの方々と出会い、様々な経験を積むことで、学問だけではなく、人としての生き方なども学ぶことができたと思う。留学生活を通じて、自分で成長したと思えることは、悩み苦しむうちに、心が鍛えられて、前向きに取り組む力が身についたことである。

高校を卒業して、親から離れ、言葉さえ分からない日本に留学しようと決心した。日本に来て、一人暮らしの難しさや物価の高さなど徐々に現実の厳しさにぶつかり、嘆く日々だった。その上、日本の教育に憧れて留学してきたが、日本語を身につける前に、経営難により日本語学校自体が倒産することになった。その時、留学の選択を間違えたかなと落ち込んだ。目の前に真っ暗な闇が広がっているようで、先へ進めなかった。でも、それを引きずったところで、いいことは何もないし、時間も止まってくれないと考え、ある時、先に進むには、物事を前向きに捉えることが必要だと感じた。

「災難の時こそが人生のチャンス」という言葉の通り、自分の身に起こったことをすべていい事だと受け入れる考え方が必要だと思った。自分が順調に教育を受けられないという痛みを体験すると、より良い教育は何よりも大切であると考えようになった。そして、「なぜ日本へ留学したのか」を改めて考えた。少しずつ掘り下げていき、徐々に何をすればよいのが見えてきた。自分が前向きになった結果、いろいろ親切な日本人の助けもあって、今までは見えなかった世界まで見えてきた。

どんな局面においてもマイナスに考えるのではなく、そこでしかできないことを考え、より前向きで実りある経験に変えていく。今の自分にできることを精一杯努力すれば、必ず自分にはプラスになると確信している。

日本での留学生活に限らず、人生には避けられないトラブルがたくさんあると思う。そんな時でも、私は、逃げずに前向きに乗り越えて、自分を成長させたいと思う。

吳 靚翎 (奨学生)

台湾 (花蓮市)

千葉大学 工学研究科デザイン科学専攻

### 留学生活を通じて自分で成長したと思えること



私は日本に来て、今年が三年目になりました。日本での留学生活を通して、私はかけがえのない宝物を見つけました。

日本語検定一級を取得し、大学院に入るという目標に向かって、日本語学校にいる間に、私は一生懸命勉強していました。毎日日本語が少しずつ話せるようになった喜びを、私は今でも覚えています。しかし、喜びの時もあるし、辛い時もたくさんありました。寒い冬に自転車が盗まれて、学生寮まで2時間も歩いて帰ったこともあり、大切な入学試験の直前に階段で転んで、足首が折れてしまったこともありました。

挫折したときに、いつも実家の様子が目に浮かびます。もし私が家にいられたら…。今までの自分は、家族から支えられている幸せな人だったのだなと初めて気づきました。

ある日、母から電話が来ました。父が腰椎椎間板ヘルニアで手術をうけると聞きました。実は、激しい腰痛で歩くことさえできなくて、一週間も会社を休んだそうです。私はこの話を聞き、涙が止まりませんでした。いつも支えてくれた父のために、私ができることはひとつもありませんでした。

日本に来たことは間違いだったと思った私は、試験を受ける気をなくしてしまいました。日本語学校の課程が終わったら、すぐに帰ることを父に伝えました。

一ヶ月後、父からの郵便物が届きました。その中に、本が一冊だけ入っていました。書名は「あなたは私の元気の源」...感情を素直に表現しない父の伝えたいメッセージが、私の心に深く染みしました。

「私が幸せであることは両親の幸せです。」

その日から、私は自分をよくすることを決めました。家族のために、自分の健康に気をつけます。いつも寝坊をしていた私は、毎日きちんと朝食をとるようになりました。運動が嫌いな私は、水泳を始めました。勉強するときは勉強に集中し、徹夜をしないようにしました。いつの間にか、笑顔が増えて、自信もついてきました。今の私は、困難があっても諦めずに頑張れます。

留学生活を通して、学業だけではなくて、私は人生の課題を学びました。それは、良い人生を送ることは、親への一番恩返しだと信じています。

周 力 (奨学生)

中国 (湖南省)

千葉工業大学 未来ロボティクス学科



### 留学生活を通じて自分で成長したと思えること

2006年3月4日、18年の間生活していた故郷を離れました。その日の不安と寂しい気持ちは未だにはっきりと覚えています。しかしこの5年間の留学生活を通じて新しい事物に挑戦することと困難に直面しても諦めないことが自分自身にとって一番成長したと思えることです。

やはり強い精神力を持っていない人は、勉強と生活をうまくやっていけないと思うので、大学で日本の伝統武道空手を習い始めました。厳しい稽古ですが諦めずにチャレンジをしました。入部してから3カ月で習志野市の大会で準優勝を獲得しました。優勝できませんでしたが、全力の力を出し切って悔いはありません。

私は大学でロボットを勉強しています。試験の点数はいつも高くはないですが、しかし自分にとって点数よりもっと大事なことは物をつくることだと思っています。たくさんのロボットをつくって動かすことです。今は学部3年生ですが、研究室で全く新しい研究テーマ“甲虫型羽ばたき

ロボットに関する研究”を考えだしました。まったく新しい研究ですので、当然ですが研究に関するすべてのことを一人で考えなければなりません。当時反対する先輩も多かったですが、しかし私は諦めずに研究のよさと今後の予定をしっかりと立てて、一人ひとりの前で納得してくれるまで説明しました。しかし一番良い説得力は研究成果を出すことです。成果を出すためにこの1年間はほとんど朝5時から夜12時まで研究をやっています。とてもつらいですが、しかし諦めたら先輩を説得した意味は全くなかったと思っていますので、責任をもっと重く感じます。しかしいつもつらい思いではありません。今年の学校内での研究発表で、私の研究に対してたくさんの先生方から良い評価をいただきました。

今後の研究をもっと頑張っ、良い研究論文をかけるように挑戦したいと思います。

王 景 (奨学生)

中国 (吉林省)

東京医科歯科大学 政策科学



### 忘れられない医者心

昔から日本という国は、美しい礼儀と医学水準先進国とわかっており、将来は日本に留学することが幼い頃からの夢だった。母国で臨床医学を習った私は、やっと日本に来て、日本語を勉強し、臨床医を目指すため必死に頑張った。

だが、夢は夢、現実と違い、日本で臨床医になる道は思ったより困難がたくさんであり、不可能とも言える。これは、私にとって大きなショックだった。

一瞬に私の世界は崩壊したと悲しい涙を流した。

ある日、近所の公園を散歩していたとき、目の前に、70代のおじいさんが倒れてしまった、どうしようかと思ったとき、40代の男性一人が倒れたおじいさんに声をかけてきた。「私は医者です」と言った後に、周りの人たちに「誰か救急車を呼んでください」とお願いした。その後、倒れたおじいさんの呼吸と目を検査して、心臓マッサージをはじめた。

私はその場から2-3メートルしか離れていなかったから、40代の男性のお医者さんから人を助ける気持ちをすごく刺激を受けた。「私も手伝いたい」と強く思った、「でも、私は医師免許を持っていない、何かあったらどうしよう〜」、「そのお医者さんがいるから、私はいらないよね〜」、「でも、そのお医者さんが一人で大変そうです〜どうしよう〜」、心が激しく戦いがあった。

「私も医者です、何によりも命が優先です」と思いながら、

男性のお医者さんに「私も医学生です、先生にお手伝いすることがございますか？」ときいてみた。その後、救急車が来るまでの約20分間、男性のお医者さんを手伝った。後から分かった、すぐに救助されたから、おじいさんは命をとりとめた。おじいさんの家族から、感謝の電話をいただいたし、そのお医者さんからも励みの言葉をいただいた。

一瞬に感動の涙が出てきた、甘い涙だった。

国境とは関係なく、人種とも関係なく、医師免許を持つ医者とも限らずに、人の命を助ける心が一番大切だ。これは医者心である。

今現在、私は医療政策科学を勉強している、臨床ではないが、医療システムの基本、医療制度の中心であり、患者の命と間接的にかかわっている。どの専攻を勉強しても、どの立場にいても、卒業後どこで就職しても、人生の使命を忘れずに、国際医学に貢献するのを忘れずに、きっと役立つ国際人材になる。

留学前に比べると、冷静になった、視野も広がった。家族と離れ一人で日本に留学し、独立生存能力もあがった、これで、生命力も強くなったと思う。前向きに生きていくのが大切、人の命を助けるのが医学勉強の目的、臨床医としても、基礎研究としても。一日医者だったら、一生医者心が忘れられない。



# トピックスTopics!

## 千葉大祭に模擬店を出店

11月6日、あいにくの雨で人の数も少なめだったが、学生たちは元気よく声を出して、みごと完売した。



がんばったね!



## OB 消息

11月25日、ラジブさん(H17 家族宿舍、ネパール)に長女誕生。  
12月4日、グリニサさん(H18 会館生、中国ウイグル)に長男誕生。

~おふたりとも、おめでとう!~

11月15日、OBのペトリ・ニエメラさん(H5 会館生、フィンランド)が久しぶりに来団してくれた。今回は千葉大OBとして学長との対談があるとのこと。いつまでも日本を忘れずにいてくれる気持ちがうれしい。

11月24日、鄧志強さん(H6年奨学生、中国)が来団してくれた。中国の広東省で幹部職員として活躍している。昔話に花が咲いた。



11月1日、会館に張曉静さん(中国、千葉大)が仲間入り。よろしくをお願いします。

## マラソンに汗を流す



12月4日、ニューリバー・ロードレースが八千代市で開催された。板倉さんの呼びかけで、会館生のプーヴィエン君、フォン君、メンディ君、エルデネさんが10キロレースに参加した。晩秋の日差しの中、みごと全員が完走! 次のレースにも意欲満々。一緒に走りた方、いませんか?

## 年忘れパーティー

12月10日、今年は20回目の記念すべき会で、130人以上の盛会だった。  
OBも家族を連れてたくさん来てくれた。



司会は王晓嵐さんと周力君。ごろうさまでした。

